

将来の子供たちが共存共生のできる豊かで平和な世界へ

変わりゆくミャンマーの中で

代表 近藤秀二



マスコミでも詳しく報道されており、ミャンマー情勢は政治的にも経済的にも激しく変化しております。私達がスタディーツアーで行き始めて7年になりますが、唖然呆然となるほど

急速に変わっております。「良い方向」へのチェンジとは言うものの、99%の人々の生活が一朝一夕に即良くなるというものでもなく、なかんづく孤児院の孤児たちの生活環境が革新されたとはいえません。

昨年度は孤児たちの卒業試験(兼共通一次試験)のための「塾」通いの奨学金や、少数民族の村の保育園建設資金援助を中心にしてまいりました。今年度はいよいよ「孤児たちのための職業訓練所」建設の調査と設立に向けて動き出そうとしています。日本語教育も含めて、縫製学校、自動車修理学校、理容美容、IT関連学校などを分校方式で作ってゆきたいと考えております。

NPO法人の資格をミャンマーでもと

り、中心のオフィスはヤンゴン市内に、またお手伝いくださる現地精通の方を6月総会で承していただき次第、決定したいと思います。

ビジネスをするために、調査研究で、日本からも順次いろいろな方がお出かけになると思われますが、ご便宜が図れるよう現地の人脈を豊富にしてゆければと準常駐の体制づくりも準備中です。従って、少人数でのツアーも即決で出発できるようになります。

11月のスタディーツアーは17日(ビジネス視察を中心)と21日(タイ旅行も兼ねる組と、少数民族PAOの村や吉岡先生の病院などをめぐるミャンマー奥地ゆき組の2班編成)の二度の出発、3班となる予定です。総会で発表します。

今期も宜しく願いいたします。

ミャンマー通信



今回のミャンマー訪問はスタディツアーというよりは、どちらかと言うとリサーチ旅行という趣でした。孤児院の孤児たちの職業訓練学校を作るとしたら・・・という問題意識を持ってヤンゴン周辺を回りました。

自動車修理工場の現状を調べるためにプロのK社長さまに同行していただきました。

手作業からショールーム付きの整備場まで新旧混交、新車販売の開始に伴い、メーカー系の修理工場の登場寸前といった局面であるように見受けられました。

日本の「難民を助ける会」が運営している、障がい者のための職業訓練所（美容理容、縫製、コンピュータ）も見学いたしました。ここは実践的な意味合いで大変参考になりました。5月の調査旅行では、政府の運営している？6箇所の訓練所をチェックしてきたいと思います。向こうで活動するためにはNGO登録、MOU申請という大変の難問が待ち構えているようです。事務所を確定次第、挑戦してみたいと考えております。

今日この頃は毎日ミャンマー関連情報マスコミ紙上を賑わしておりますが、現地である方から個人的にお聞きした話は目から鱗でした。私が「この民主化は

一体誰がやっていて、逆行はしないだろうか？」と質問した時の答えです。もちろん公式的には2014年のASEAN議長国となって関税撤廃にむけての第一歩を踏み出すということでしょうが、裏読みとしては政権の主要なメンバーの資金凍結解除、「中東の春」の恐怖などがあげられるということです。

2日間かけてタウンジーからインレイのユアマ保育園慰問とダヌー族の村のカンガ保育園のオープニングセレモニーにも参加して参りました。またトンテの孤児院も見学してきました。

Kさんご紹介下さったミャンマービジネスセミナー ―変わるミャンマーの政治経済（JETRO アジア経済研究所 工藤年博氏）が大変わかり易いです。
<http://www.ide.go.jp/Japanese/Dogachannel/111215myanmar-b/index.html> ←ここをクリックすると講演とレジュメが同時に現れます。

最近出版された参考本『ビルマからの手紙』『新ビルマからの手紙』（毎日新聞社）、『ビルマの独裁者タンシュエ』（白水社）

2012.4.7（ほぼ旬刊ミャンマー通信 vol.14）



第11回 ミャンマースタディーを振り返り

アイウッド株式会社
取締役会長 熊谷 友枝

2012年3月17日から24日の8日間ミャンマーに行って来ました。ヤンゴンに到着して一番に感じたことは、話には聞いていたことだけど、日本の中古車が沢山走っていて活気があることでした。そして街中を走ってみると故障した車が路上で修理しているのにまずビックリしました。高層マンションが建っているかと思うと、裸電球

の家があったり、樹木に囲まれた門番のいる大豪邸があったりと、貧富の差が大きいことも確かめることができました。今まで話には聞いていたけれど実際に見てみると度々ビックリしてしまって頭がパニックになり、「感想は？」と聞かれてもうまく返答できません。それほど...ビックリの連続でした。特にビックリしたのは送電線のお粗末なことでした。細い電信柱に何十本もの細い電線が各家々に繋がられていて、雨が降ったら漏電しないかと心配になりました。

した。何回もこられた方々は、「凄いだろー!」と笑っていました。本当に凄いです。しばしば停電になることもうなずけます。

バガン観光の後、市場に連れて行っていただきました。生活に必要な物は全て間に合う位いろいろな物が売られている中から、私は民族衣装を買いました。ガイドさんに助けてもらいながら価格交渉をし、とても楽しい時間を過ごすことができました。

バスの移動中ナス畑を見つけました。品種改良されていない原種に近いナスが植えられていました。日本のナスはほとんど接ぎ木をして大きくするのですが、ここではそのまま植えているようです。私は去年、植木鉢でナスを育てました。下の葉っぱが枯れて来たので枯れた部分を切り取ると、そこから見たこともない葉っぱが生えてきました。知り合いの人に見せたらナスの原種が出てきたからもうこの木にナスはできないとの事でした。その時の葉っぱと同じものが植えられていたことが非常に印象に残りました。

ミャンマーは、インフラも教育も農業も全て後進国だと思いました。私の知り合いで東南アジアから農業の研修生を受け入れて自宅でお世話をして農業を教えている人がいます。新潟県はおいしいお米が取れるだけでなく野菜もいろいろな物が取れます。ミャンマーでスイカもミカンもイチゴもリンゴも頂きましたが新潟の地元のものはおいしいなあと改めて知ることができました。品種改良が遅れているからだと思います。

私はミャンマーの人達に何のお手伝いができるのだろうと考えましたが、何もできない私がいるだけです。これからゆっくり考えたいと思います。

旅のお供をして頂いた近藤会長をはじめ、皆様に貴重な経験をさせて頂きましたことを感謝いたします。ありがとうございました。



3月21日（水）

鶏がさえずる声と船のエンジンの音で目を覚ました。

ホテルを7時すぎに出発した。今日は車で片道4時間ほどかかる村へ行く事になっている。

昨日来た道を走って途中から右折して（左折すると空港の方に行く）デコボコ道をひた走る。道路は中央部分だけが舗装されているが、日本のように快適に走行できない。継ぎ接ぎだらけのアスファルトである。

途中対向車と出会うとお互いに舗装道路から右側によける事になるので未舗装の道路を走る事になる。

走行している車は、みな積載違反である。トラックの荷台に十数名の人が立って乗っていたり、車高の2倍も荷物を積んだ車、過積載のトラック、バイクは2人から3人乗っている。一人で乗っている人は全く見かけない。

車中で、ガイドの柴田さんのこれまでの活動体験や今の生活について聞いた。また、ミャンマー人ガイドのチェーさんの人生体験も聞いた。柴田さんは、ミャンマー人の方とご結婚され、お子さまにも恵まれた。ご主人の実家が今日、訪問するパウ族の村の近くだとのこと。

途中、道路工事をしていた。本当に人力である。

今の日本のようにブルドーザーを使うと簡単に工事が進むと思うのだが・・・。

昔の日本（昭和30年頃）の失業対策事業（失対）で人夫が道路工事をしている光景を想い出した。それは母親が人夫として働いている光景とオーバーラップしてくる。

その当時、日本では竹で編んだテミでバラスを運んでいたが、ここミャンマーでは頭の上に菅笠を逆さにしたような金属製の入れ物にバラスを入れて運んでいる。それも女性が・・・。それも日本の土方仕事と同じである。



さらに進んだところで、走っている列車を見かけたが大変遅い。何しろ線路が日本とは比べ物にならないほど粗末である。昔のトロッキのレールのようにデコボコである。

数時間ぐらい走った所でトイレ休憩をした。日本で言う喫茶店みたいなものである。

ドアも無く直接店内に入ったらお菓子が出され、ミルクティーを飲む人、烏龍茶のようなお茶を飲む人がおり、金額は2000チャットであるが、チップの意味で3000チャットを支払ったが、店の人は驚きガイドの柴田さんにどう言う意味か聞いたそうである。我々約10人分の料金で200円である。ここでも地元の物価水準が分かる。

我々が店にいる時に僧侶が托鉢にやってきた。

店の人が紙幣（100〜200チャットぐらい）を渡していた。

店のトイレは綺麗な方であると言うが、日本とは違う。

トイレ休憩をしてまた走り出す。

鉄道の終点駅の近くで今日は市が開かれていた。大変な賑わいである。人が集まると活性化する。

そして、最終目的地であるパウ族の村に入った。

新しい保育園（ミャンマー基金で建てた）に沢山の村人が集まり太鼓と民族音楽で我々を迎えてくれたのには驚きました。

保育園の中に入ると園児達（3〜5歳）が歓迎して迎えてくれ、何か大きな声で挨拶をしてくれているように思えた。その時、今から57年前にタイムスリップしたような気持ちになった。

4〜5歳の頃母子寮の保育園を想い出しこみ上げてくるものがあつた。

我々も何かを貰ってこのようにお礼をしたような気がする。

その保育園にはテーブルが用意されそこには果物などが盛り付けられ式典が挙行された。

歓迎の挨拶、お礼の挨拶、などが有り、本、紙芝居、子供のグッズなどを手渡した。その後、新しい紙芝居を見せた。

次に保母さんが「桃太郎」の紙芝居を見せていた。園児達も保母さんの質問に大きな声で答えながら紙芝居も終了し、その後、園児達と記念写真を撮り、外では地元の娘さん、代表者と記念写真を撮影した。

昼食を地元の富豪の家でよばれた。我々の口に合うように調理された。食事の後に謝辞を述べて、その家を後にした。

ホテルに戻るまで4時間。途中、ワイナリーに立ち寄り試飲をしました。4種類のワインを1000チャットで試飲できます。ワインを二本購入してからホテルに帰り、シャワーを浴びて夕食になりました。

この日もWi-Fiが繋がらず、メールのやり取りができませんでした。

大学生 松崎 円香

このスタディーツアーで、自分の勝手なイメージや固定観念があったことに気づかされました。

そのことをとても強く感じたのは、孤児院へ行った時です。

まず“孤児”という名前から、東日本大震災によって親と離れ離れになってしまった子どもたちが思い浮かび、両親がおらず寂しい思いをしている子どもたちが生活しているのだと思っていました。しかし実際に行ってみるとそこで生活している子どもたちは明るく、とても幸せそうでした。でもそのようにみえるのは表面だけで、実際は心の底に寂しさがあるのではないかともしました。

日本に帰ってきてからミャンマーの方が書いた文章を読みその文章に、日本の親は子どもに手をかけすぎだということ、3歳くらいになれば自分で判断ができ子ども自身が考える遊びをすればいいと書いてありました。

孤児院にいた1番年下の子が3歳だと聞いたとき、こんな小さい時から親と離れ離れで寂しくないのかと思いました、それも親がいることが当たり前になっている

自分の考えなのだと思います。

また、ヤンゴンと地方の家の造りや街の雰囲気の違いに驚かされました。

テレビや新聞・教科書で取り上げられるのは格差や貧富の差の悪いところで、自分も格差や貧富の差は漠然と良くないものというイメージがありました。実際にスタディーツアーへ行く少し前に横浜へ旅行に行く機会があり、そこで見た街の人々の活気・活力のなさに衝撃を受けました。その街は住民登録をせず暮らしている人がとても多く、ホームレスの方もよく目につきました。お金や仕事がなくただ一日が過ぎていくのを待つだけの人々の目は、生氣がなく何も見えていないようでした。

そんな街を実際に見たことはとてもショックが大きく、日本の格差のマイナスの部分を目の当たりにした気分でした。そのことからミャンマーでも都市と地方の街の風景が異なっていたので、格差があつて辛い思いをしている人々がいるのだと思っていました。

しかし、特に地方の街で、私たちのバスが通ると大人子ども関係なく手を振ってくれたり、目が合うとほほえんだりする人の温かさにもふれることができました。たとえあまりお金がないとしても家族がいて、友達がいる、街の人々との交流があつて、や

りがいいのある仕事があることは、人々が幸せになる種なのだと思います。援助・支援＝プラスという考え方は安易だったと気づき、援助するということは一步間違えばその国にマイナスの変化をもたらしたり、余計なお世話になってしまうこともあるのだと思いました。

今 ASEAN の中でミャンマーの経済発展の遅れが話題に上っているそうです。ミャンマーの人々もより便利により快適にと思うのは当然のことだと思うので、経済が発展しても、格差のマイナス面がみえてきたとしても、ミャンマーの人々の素晴らしいところが残ってほしいと思います。

このスタディーツアーでとても大きな経験ができ、普通の観光だけでは感じとれない部分をたくさん吸収できました。水牛の水浴びをみて、牛もあんなに嬉しそうな表情をするんだ！と、私もとても幸せな気持ちになりました。ご一緒させて頂いた方々からもたくさんのお話を聞かせて頂いて、とても充実した1週間でした。また、最終日のサプライズケーキもとても嬉しかったです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。日本ミャンマー豊友会の皆さま、ありがとうございました。



ミャンマーからの嬉しい便り



豊友会の皆さん、いただいた紙芝居、活用されてます。
これは11月のツアーでいけなかった、第3の保育園「カンボー保育園」です。
子供達、みんな「舌きりすずめ」の話を暗記してました。



1月3日に第3の保育園「カンボー保育園」の新しい園舎を見に行ってきました。
これは、その日集まってくれた保育園建設委員会や村の皆さんと一緒に撮った写真です。
私が持っているのは、村の皆さんから豊友会の皆さんへの感謝状です。
3月のツアーの時にお渡ししますね。新しい園が完成し、村の皆さんはとても喜んでいました。

ハートメディカル・グループへ贈られた感謝状



ユワマ保育園からハートメディカル・グループに送られた感謝状です。こうした活動は、中日新聞でも紹介をされました。



第12回ミャンマースタディー

参加者募集

病院や孤児院、ビジネス視察もあります [詳細は、近日ご案内いたします]



〒442-0826 愛知県豊川市牛久保町城下73番地(大木産業株式会社内)
Tel. 0533-85-3358 Fax. 0533-85-4986 e-mail: jamahajapan@gmail.com
<http://www.hoyukai.com/myanmar/>